

中国の輸出規制による供給懸念で相場は上昇基調続く

タングステンの中間原料・APTの国際相場（バラタングステン酸アンモニウム、ヨーロッパ・アメリカ）は、今年1月まで330ドル/Mtu前後で推移していたが、最大生産国の中国が2月にAPTや酸化物、炭化物など輸出規制の強化を実施したことで3月から上昇基調に転じ、足元では450ドルと14年ぶりの高値で推移している。需要面では、主用途の超硬工具が盛り上がり欠く一方、中国では審査遅れから出荷が滞っており、供給懸念が強まっている。タングステンの中間原料・合金鉄・スクラップを長らく取り扱ってきたNIC Resourcesの西野元樹社長に今年7～9月の相場見通しを寄稿してもらった。

APT相場は中国の輸出規制の強化で14年ぶり高値

タングステン中間原料であるAPT（CIFロッテルダム/バルティモア）の国際相場は、6月下旬時点で430～475ドル/Mtuに達し、中値ベースで450ドルを突破。これは2011年以来、実に14年ぶりの高値圏となる。

3月末に本紙に寄稿した4～6月期の市況予測では「400ドルに迫る可能性」に触れていたが、5月中旬に400ドルを突破し、6月にはそれを大きく上回る展開となった。

輸出許可が進まず他国も長契で手一杯で需給がひっ迫

今回の相場急騰の最大要因は、やはり中国による輸出許可制度の導入にある。2月4日以降、APTや酸化タングステン（YTO）、炭化タングステン（WC）粉などが規制対象となったものの、当初は市場に大きな反応はなかった。だが、3月以降は徐々に値を上げ、5月中旬からは急騰局面に入った。

特に5月以降、輸出許可の発給がほとんど進まず、ベトナムなど他の供給国も長期契約分で手一杯の状況。西側市場ではAPTやYTOのスポット在庫が急速にひっ迫し、高値でも確保を優先する動きが強まっている。

一部では、タングステン酸やメタタングステン酸アンモニウム（AMT）など、輸出許可不要の代替品への関心も高まっているものの、用途や仕様の制約があり、完全な代替とはなっていない。スポット契約は従来のMeanベースからMean-HighベースやHigh超えの水準での成約が目立ち、さらなる価格上昇につながっている。

中国内の精鉱価格は供給ひっ迫で過去最高値を更新

中国内の精鉱価格も過去最高を更新している。今年第1回の採掘率は、前年から約4,000tの減少した（前年比4.2%減）。中小鉱山の操業停止や既存鉱山での品位低下、また新規鉱山の稼働開始もなく、供給ひっ迫が深刻化する中で、精鉱価格は17万元/tを突破。これは、2011年の過去最高16万元を超える水準となる。

過去数年、中国はAPTなどのタングステン原料を年間約1.2万t（W純分換算）輸出してきたが、輸出許可制度の導入以降は出荷がほぼ停止。だが、それにもかかわらず、中国国内の精鉱価格は高値を維持している。

輸出審査の進捗次第で相場は\$500に迫る可能性も

現在、中国と西側諸国との供給関係は輸出許可制度によりフリーズ状態になっているが、世界の精鉱供給の8割超を中国が担っている現実是不変である。

中国では精鉱価格の高止まりが継続し、西側では原料在庫のひっ迫やスクラップ価格の高騰が進行。たとえ西側で精鉱やスクラップを製錬したとしても、APT国際相場のMeanを大きく上回ることになる。

アメリカ・中国間で電撃的な合意が成立し、輸出許可制度そのものが廃止されるような展開があれば、市況は一変する可能性もある。だが、その可能性は極めて低く、現時点ではこの上昇傾向が当面続くと見られ、APT相場は一段高の展開が濃厚だ。したがって、今年7～9月のAPT国際相場は、450～500ドルのレンジで推移すると予測する。